



2015年度
(平成27年度)

事業報告書

第1 法人の概要

1. 聖母被昇天学院の基本的考え方
2. 学校法人の沿革

第2 事業の概要

1. 2015年度（平成27年度）重点施策
2. 2015年度の高等学校卒業生進路
3. 2015年度の各校園事業報告
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園
聖母被昇天学院小学校
聖母被昇天学院中学校高等学校

第3 財務の概要

1. 2015年度決算状況 別添2015年度財務状況資料のとおり

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

1. はじめに 聖母被昇天学院の基本的考え方

(1) 沿革

聖母被昇天学院の母胎である聖母被昇天修道会は1839年フランスで、聖マリ・ウージェニーによって創立された。聖マリ・ウージェニーは当時の社会体制の中で成長し、キリストへの信仰を見出し、真の人間性の育成、愛と正義による社会の建設はキリストによってのみ可能であるという信念に基づき、社会の変革に貢献する青少年の教育を行う修道会を創立した。

聖母被昇天修道会は、現在パリに本部を置き、世界32か国で、教育活動を行っている。修道会は1952年来日し、1954年に学校法人聖母被昇天学院が設立され、今日に至っている。

(2) 聖母被昇天学院の教育

聖マリ・ウージェニーの教育理念に基づき、時代の変化、必要に答えるべく、次のような教育的考えの基に教育活動を行って人材を育成していく。

- ・人間一人一人の中にある神から与えられた可能性を引き出し、鍛え、輝かせる。
- ・自分を知り受け入れ、他者との違いを受け入れ人間関係を作る。
- ・キリストの教えに基づいた価値観を身につける。
- ・人間一人一人には固有の使命がある、それを見つけ行動に移す。
- ・多様化する国際社会において、異文化を理解し、受け入れ、その中で人々と共に生きることができる。
- ・正義、平和、環境保全の実現のために貢献する。

2. 学校法人の沿革

① 法人設立認可年月日

1954年 2月6日	学校法人被昇天学園 設立認可
1987年 4月1日	学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

② 学校園設置認可年月日

1954年 2月9日	幼稚園設置認可
1954年 2月9日	小学校設置認可
1959年 11月6日	中学校設置認可
1962年 9月29日	高等学校設置認可
1967年 1月23日	短期大学設置認可
2005年 7月29日	短期大学閉学認可
2015年 3月31日	幼稚園廃止認可
2015年 4月1日	認定こども園設置認可

③ 設置する学校園

幼稚園	1953年 4月1日	開園
小学校	1954年 4月1日	開校
中学校	1960年 4月1日	開校
高等学校	1963年 4月1日	開校(全日制)
認定こども園	2015年 4月1日	開園

④ 学校園の学生数の状況

2015年5月1日現在(単位:人)

	入学定員数	収容定員数	現員数
認定こども園	124	324	308
小学校	60	360	190
中学校	80	240	133
高等学校	80	240	172
合計	344	1164	803

⑤ 役員の概要

理事

2016年3月31日現在(定員7名)

区分	氏名	常勤・非常勤	摘要
1号 校長から選任	-	常勤	中学校高等学校校長
1号 校長から選任	西尾千鶴代	常勤	幼稚園園長
2号 評議員から選任	武井明比古	非常勤	顧問
2号 評議員から選任	三宅理磨	常勤	小学校中学校高等学校副校長
3号 修道会から選任	宮本恵子	常勤	理事長
4号 学識経験者から選任	高橋博	非常勤	副理事長
4号 学識経験者から選任	ミカエル・カルマノ	非常勤	外部理事 南山大学学長

監事

2016年3月31日現在(定員2名)

区分	氏名	常勤・非常勤	摘要
監事	中島康之	非常勤	社会保険労務士
監事	高松常子	非常勤	高松聖母被昇天学院理事長

⑥ 評議員の概要

評議員

2016年3月31日現在(定員15名)

氏名	主な現職等	
-	中学校高等学校校長	-
森川マリ子	小学校校長	2013年就任
西尾千鶴代	幼稚園園長	2004年就任
三宅理磨	小学校中学校高等学校 副校長	2008年就任
斎藤直美	中学校高等学校教頭	2014年就任
田所さゆり	経理課長	2014年就任
武井明比古	顧問	2015年就任
稲田礼子	卒業生	2008年就任
赤堀三千子	卒業生	2004年就任
橋本みちよ	卒業生	2004年就任
高橋博	副理事長	2015年就任
ミカエル・カルマノ	南山大学学長	2002年就任
武智順子	顧問弁護士	2012年就任
森田和一	前理事長	2010年就任
宮本恵子	理事長	2012年就任

⑦ 教職員の概要

2015年5月1日現在 (単位:人)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	法人	合計
教 員	本 務	18	14	15	17		64
	兼 務	13	9	23	16		61
職 員	本 務	2	2	1	1	6	12
	兼 務	2	3	2	3		10

第2 事業の概要

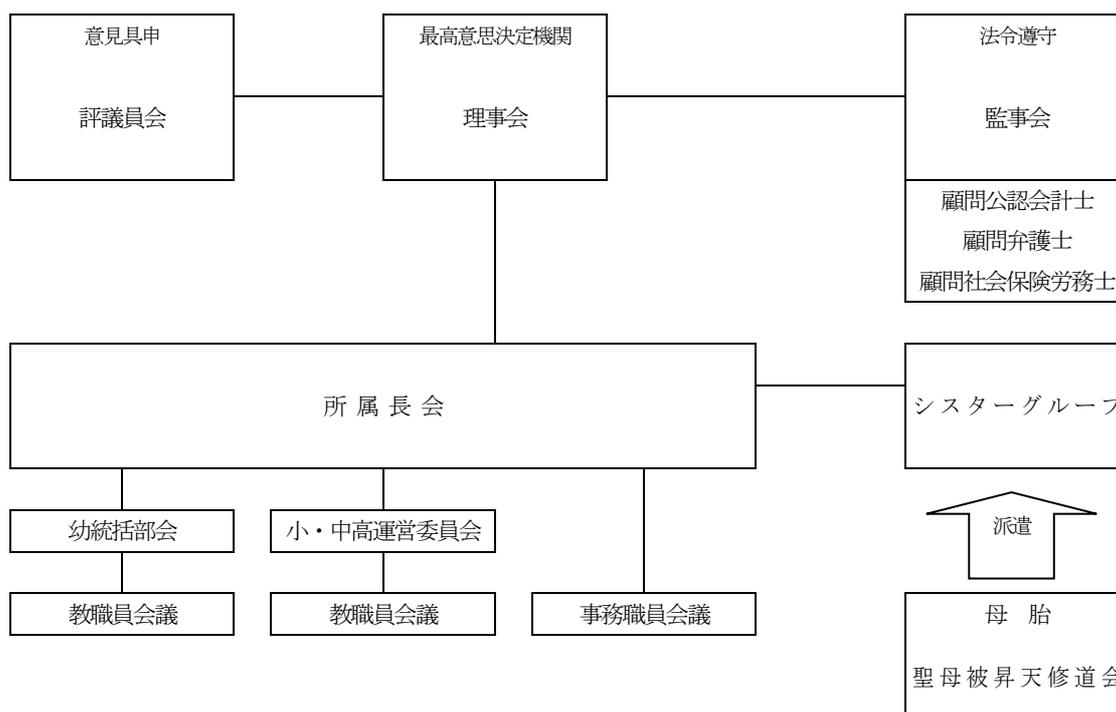
1. 2015年度(平成27年度)重点施策

・2015年度に取り組んだ重点施策は、以下のとおりです。

- 1) 聖母被昇天学院の基本的考え方の徹底
- 2) 教育方針
- 3) 入学者の確保
- 4) 新たな取り組み
 - 認定こども園の開園
 - ユネスコスクールへの申請
- 5) スクールバス路線拡張
- 6) 学校評価システムの展開推進

1) 聖母被昇天学院の基本的考え方の徹底

- ・徹底のために、シスターグループの再構築を図り、理念・基本的考え方の研修会を企画推進します。
- ・意思決定プロセス



- ・修道会からの2015年度派遣シスター シスターグループ12名

Sr. 宮本 恵子	Sr. 森川 マリ子	Sr. 岡田 恵子
Sr. 村井 信子	Sr. 深瀬 聖子	Sr. 中山 カナ子
Sr. 陰山 明美	Sr. 小川 信	Sr. 磯西 美智子
Sr. クレア・ジョゼフ	Sr. 小林 恭子	Sr. マリー・ルイズ・マン

2) 教育方針は以下の通りに定め、実践しました

教育目的・・・どのような人材を育てるのか

- ・日本と世界の中で、正義と平和、環境保全を大切にする社会の実現のために、自分の使命を見出し、それを行動に移す、貢献することのできる人材の育成。
- ・異文化を知り、理解し、尊重することのできる人材の育成。
- ・広い知識と教養を身につけ、人を大切にする人材の育成。

教育の重点項目

- ・基礎学力充実と応用能力、探求能力の開拓
- ・表現能力の育成。コミュニケーション、プレゼンテーション、ディベート能力及びそのための技術の習得
- ・語学能力を高める。日本語の習得。次に外国語。
- ・日本に滞在している人、特に日本人は日本の歴史、文化を身につける。
(多くの文化を知るには自国の文化を身につけることが必要)
- ・自己認識を自己受容

やさしく言えば・・・

- ・未来に向かって、どのような状況に直面しても、生きる道・方法を見つけることができる人間に育てる。
- ・平和な世界のための人々との共感と共存。

3) 入学者の確保に努めた結果、小学校は20名の増加でしたが、中学校は1名減、高等学校は16名の減となりました

- ・小学校、中学校、高等学校への一貫教育の推進
- ・国際交流・外国語センターの充実強化
 - (1) 小中高の英語一環教育を推進し、児童・生徒の英語運用力のアップを図りました。
小中高において、アメリカ・ボストン語学研修を実施しました。
 - (2) 目標を明確にし、目標達成のために外国語科教員の統率を行いました。
 - (3) 学院内外で行われるレシテーションコンテスト、スピーチコンテストのレベルアップを図りました。
- ・内部進学への推進。特に小学校から中学校への内部進学
 - (1) 募集定員の確保のため、早期からの取り組みを企画・実施しました。
 - (2) 内部進学促進のため、計画的な取り組みを検討・実施しました。
 - (3) 学院の特徴や生徒の頑張りを広く内外に発信しました。
 - (4) 学校会・学年会・分掌の連携を密にし、情報の共有を図りました。
 - (5) 要配慮児童、生徒に対しての教職員間の報告・連絡を密にし、支援に取り組みました。
 - (6) 理念・モットーの具現化をいかにわかりやすく伝えるかを研究しました。
 - (7) 「開かれた学院」となるために、父母の会・地域との関係を強化しました。

・在籍園児・児童・生徒数の推移

単位 (人)	定員	2015 年		2016 年		2017 年	
		目標	実績	目標	実績	目標	
		2014 年度	5 月 1 日	2015 年度	5 月 1 日	2016 年度	
幼稚園	2 歳児	24	12	8	18	7	24
	3 歳児	100	95	95	100	104	100
	4 歳児	100	101	100	100	97	100
	5 歳児	100	114	105	100	99	100
	計	324	322	308	318	307	324
小学校	1 年生	内部	5	4	5	8	20
		外部	25	11	15	27	40
		計	30	15	20	35	60
	2 年生	60	22	25	15	14	35
	3 年生	60	29	29	25	23	14
	4 年生	60	31	32	29	32	23
	5 年生	60	45	45	32	34	32
	6 年生	60	47	46	45	41	34
計	360	204	192	166	179	198	
中学校	1 年生	内部	35	25	30	24	20
		外部	30	20	26	20	50
		計	65	45	56	44	70
	2 年生	80	50	46	45	45	44
	3 年生	80	45	45	46	44	45
計	240	160	136	147	133	159	
高等学校	1 年生	内部		53	40	32	35
		外部	20	8	10	13	35
		計	70	61	50	45	70
	2 年生	80	67	60	61	62	45
	3 年生	80	53	52	60	57	62
計	240	190	174	171	164	177	
総合計	1,150	876	809	802	783	858	
		△274	△341	△348	△367	△292	

・教職員体制

		定員	2014年度	2015年度	2016年度
幼稚園	入園者	100	99	103	103
	在籍者	310	314	308	307
	専任教員		17	16	19
	非常勤講師		13	14	15
	専任職員		2	2	2
	非常勤職員		2	3	3
小学校	入学者	60	21	15	35
	在籍者	360	222	189	179
	専任教員		17	14	14
	非常勤講師		6	8	12
	専任職員		2	1	1
	非常勤職員		2	5	6
中学校	入学者	80	46	45	44
	在籍者	240	149	133	133
	専任教員		15	15	16
	非常勤講師		9	8	8
	専任職員		1	1	1
	非常勤職員		2	4	4
高等学校	入学者	80	60	61	45
	在籍者	240	174	172	164
	専任教員		18	18	17
	非常勤講師		9	9	11
	専任職員		1	1	1
	非常勤職員		2	2	3
法人	専任職員		5	6	6
	非常勤職員		1	0	0
学院 合計	入園学者	320	226	224	227
	在籍者	1150	859	809	783
	専任教員		67	63	66
	非常勤講師		37	39	46
	専任職員		11	12	12
	非常勤職員		9	14	16
計			124	128	140

4) 新たな取り組み

① 認定こども園の開園

- ・ 2015年4月より、新しい制度に基づいた幼保連携型認定こども園として開園しました。
子供たちの発達の特性を理解し、子供たち自らが主体的な活動ができるような教育・保育の充実を図り、更に義務教育への橋渡しの時期に、子供たちを取り巻く環境が激変する中では連続性のある保育が必要であり、社会や地域のニーズに応じて子育て支援に貢献することを目標として、箕面市が推進する新しい子ども・子育て支援制度に則った運営を行っています。
- ・ 安心こども基金（国から1/2、市から1/4の補助金）の支援を受け、学院北西の場所に新しく保育施設が完成し、2～5歳児の保育園と幼稚園の全ての園児を対象とした、アレルギー食に対応した自園調理による給食を実施しています。

② ユネスコスクールへの申請

- ・ 「国際理解教育」・「環境学習と食育」・「奉仕活動と地域交流」を柱とした「ユネスコスクール」の申請をしました。

5) スクールバスの新規路線開設

- ・ 2015年4月より、新規に箕面市彩都地区へのスクールバスの運行を開始しました。これは、最近の彩都地区の子育て世代人口増加が顕著であるため、私学進学希望者の需要に応える為です。

6) 学校評価システムの展開推進

- ・ 評価結果を公表し、PDCAサイクルで改善改革を推進
2007年6月の学校教育法一部改正により、学校評価の実施とその結果に基づく学校運営の改善及び学校の情報提供に係る総合的な根拠規定が盛り込まれるとともに、2007年10月には自己評価結果の公表が定められ、あわせて新たに学校関係者評価についても規定されました。
これを受け、本学院においても2008年度から「学校評価委員会」を発足させ、12月から翌年1月にかけて、アンケートにより各校園の学校評価を全教職員に実施するとともに、2009年度からは学校関係者の評価も加えて実施しています。さらに、今年度は、第3者評価委員を組織し、評価を行っていただきました。

7) 学院改革の開始

- ・ 2017年度入試に向けて、これまでの教育体制と内容を一新して、新しい学院への改革再生に着手しました。実践的な「学びの力」をつけるため、他教科を英語で学ぶ【イマージョン教育】による英語力の育成、学習を主体的な人間力に変え問題解決能力を養成する【アクティブラーニング】の導入、そしてこれを支えるカトリックの教えによる人間力を磨く教育というこれらの3つの柱とした教育内容の改革と、これを行う教員の教育力の充実と体制強化に努めております。

2. 2015年度の高等学校卒業生進路（卒業生52名）

[国公立]

大阪大学	1名		計 1名
------	----	--	------

[近畿圏外私立大学]

上智大学	3名	法政大学	1名
白百合女子大学	1名		
			計 5名

[近畿圏私立共学]

関西学院大学	3名	関西大学	4名
同志社大学	1名	龍谷大学	1名
近畿大学	5名	追手門学院大学	4名
甲南大学	1名	大阪音楽大学	1名
大阪学院大学	1名	京都精華大学	1名
京都外国語大学	2名	神戸薬科大学	1名
神戸学院大学	1名	関西国際大学	1名
京都産業大学	1名		
			計 28名

[近畿圏私立女子]

神戸女学院大学	3名	武庫川女子大学	1名
甲南女子大学	1名	神戸海星女子学院大学	1名
京都ノートルダム女子大学	2名	神戸松蔭女子学院大学	3名
			計 11名

[私立短期]

大阪芸術大学短期大学部	1名	華頂短期大学	1名
関西外国語大学短期大学部	1名	大阪信愛女学院短期大学	1名
			計 4名

[専門学校]

中日本航空専門学校	1名		
			計 1名

3. 2015年度の各校園事業報告

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園事業報告

聖母被昇天学院小学校事業報告

聖母被昇天学院中学校高等学校事業報告

幼保連携型 認定こども園 聖母被昇天学院幼稚園

◆ 幼稚園運営方針（幼稚園がめざす教育） ◆

～ 柔軟でバランスのとれた人格形成 ～

幼稚園では「正しく生き生きとした子ども」・「やさしく明るい子ども」・「考え、最後までやりぬこうとする子ども」を教育目標に掲げて保育活動を行っている。まっすぐな心で、いつも心の奥深くからあふれ出る喜びいっぱい、神さまから与えられた無限の可能性を精一杯発揮できるように導き、他者との違いに気づき、思いやりやいたわりの心を育みたい。

◆ 在籍者数及び入園者数 ◆

（ ）内は定員	2015/3	2015/4	2016/5
年長児（100名）	105名	105名	99名
年中児（100名）	100名	99名	97名
年少児（100名）	96名	96名	104名
2歳児（18名）	—	8名	9名
合計（318名）	301名	308名	309名

2016年度募集に関しては、各学年定員を100名と設定。

2歳児クラスは、3年を目途（2017年度までに）に定員12～18名に近づけるようにする。※2016年度より、2歳児は、定員24名から18名に変更（箕面市確認済み）

1. 現在行っている保育活動の充実

(1) モンテッソーリ教育

- ・ ディプロマ資格者中心に、週に1回の教職員研修を行った。
- ・ 「保護者のモンテッソーリ研修」は、シスター深瀬にもご協力を願い、年間3回行った。
- ・ ディプロマ修得に向けて、1名を京都モンテッソーリ研修に参加し、1年次は終了。

(2) 認定こども園として、被昇天独自のカリキュラム完成

3歳以上の幼稚園と2歳児クラスの連携を図るように、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき「全体的な計画の作成」中である。2歳児から3歳児への連携（繋ぎ）に課題が残る初年度であった。

(3) 教職員研修の充実（教職員の資質向上）

- * 「保育案」を検討・「模擬授業」の実施により、保育技術の向上を目指した。また、新任教諭対象のシスターグループによる研修や、大阪府主催の新任研修に参加させた。

*モンテッソーリの研修は、広島・京都・東京と作法に違いがあるが、徐々に緩やかな作法へと変わっていているようなので、本園で一致した方向を纏めていきたい。

*教職員の研修の中心となったのは、年々増えつつある「気になる子」への対応で、今年度は学院臨床心理士福岡先生をお迎えして、定期的に「特別支援児への関わり」と題して、研修を重ね教職員で共有する機会を持った。

(4) 食育への取り組み

自園給食初年度でもあり、食育は、今までの調理のみに留まらず、給食中の配膳の方法や、食べ方などにも配慮した。学校評価の保護者コメントにも、「好き嫌いがなくなった。」「米粒を残さずきれいに食べるようになった。」という感想を頂いた。

(5) その他、お茶の時間(和の心)ETM(英語の活動)も充実を図り、特にETMは、小学校の1室を使用して行い、幼小連携にも配慮した活動とした。

2. 入試広報活動としての「子育て支援事業」①

① アサンプション・プレスクールは、ここ数年の取り組みで、下記のような形態で定着してきたので、次年度も踏襲していきたい。

《ひよこバッチクラス(幼稚園あそび)》・・・各コース 12名

親子で登園し、同じクラスの友だちや担当教員と一緒に、幼稚園での様々な活動を実際に体験し、集団生活を楽しみながら社会性を身につけることを目的とする。

	火曜コース・木曜コース	水曜コース
実施期間	5月～翌年2月(週1回)	5月～9月(週1回)
費用	入会金5,000円・会費:前期10,000円・後期10,000円)	

《にこにこジャンプ!クラス(体操あそび)》・・・定員最大30名まで

本園在園児も取り組んでいるYMCA専属のリーダーと一緒に、カリキュラムに沿った体操あそびを通して、子どもが体育あそびに興味をもち、自由に体を動かすことの楽しさを味わう。

実施期間	年間全10回(5月～10月)
費用	入会金 5,000円
	会費 全10回 8,000円 ※損害保険料・おやつ代・雑費含む

3. 「認定こども園」としての「子育て支援事業」②・③・④

②みんなであそぼう(つどいの広場)・・・週1回実施

③子育てなんでも相談・・・主幹教諭による週1回実施+臨床心理士による週1回実施

④在園児(1号認定)対象の一時預かり保育

②みんなであそぼう!

* (つどいの広場事業) <パート1>

■ねらい

- ・親子で幼稚園に集い、遊ぶ場所を提供する。
- ・「幼稚園あそび」を通して、友だちや先生との関わりを楽しみ、充実感を味わう。

■対象：未就園児とその保護者おおむね15組程度（親子で参加）

※はじめは、1組程度の参加から始まり、徐々に1歳児～2歳時の参加が見られた。1時間程度の内容であるが、無料で安心して遊べる場所の提供ができた。

***（つどいの広場事業） <パートⅡ>**

■開催日：土曜日もしくは日曜日、月1回実施

■対象：未就園児とその保護者（原則としては1歳～3歳）

※定員も最大80名程度でなおかつ、土日の設定であるため、家族で参加することもできるため、毎回盛況であった。

《実施内容》

月	日	主な保育内容	持ち物	備考
4月	18日	園庭開放	・水筒・帽子・タオル	幼稚園見学
5月	16日	親子製作「こいのぼり」	・上靴・タオル	子育て相談
6月	20日	YMCAリーダーと遊ぼう 「親子ふれあい体操」	・上靴・水筒・タオル	子育て相談
7月	11日	夏祭り	・上靴・手提げ袋・水筒	
8月	1日	食育クッキング「ピザづくり」	・エプロン・三角巾 ・タオル・コップ	園庭開放
9月	5日	体験保育「幼稚園体験」	・上靴・水筒・帽子・タオル	園庭開放
10月	10日	運動会～よーい！ドン！～	・水筒・帽子	
11月	11日	親子製作「どんぐりのお面」	・上靴・コップ・お皿・タオル	園庭開放
12月	19日	ミニミニクリスマス会 ・ペープサート鑑賞	・上靴	
1月	30日	幼稚園たんけん	・上靴・タオル	健康相談
2月	17日	親子製作「雪だるま」	・上靴・コップ・お皿・タオル	園庭開放
3月	23日	・エプロンの着脱 ・幼稚園体験（母子分離）	・上靴・エプロン・コップ・お皿・タオル	園庭開放

■募集の方法：ホームページにて告知し、実施日の1ヶ月前から電話・FAXで受付を行った。

③子育てなんでも相談室

家庭や地域社会との連携を深め、積極的に子育てを支援していくために、主幹教諭を中心に実施。育児のストレスや子どもの成長に関する悩みなどに対して、カウンセリングマインドでアドバイスすることにより、子どもたちの健やかな育ちを保障する機会としたい。実際のところは、この時間帯を利用するの相談ではなく、随時相談を受けているのが現状である。

④教育時間（1号認定）在園児対象の「一時預かり保育」

- ・8：00～18：00まで1号認定の園児が利用できる。（申し込みは当日）
- ・長期休業中特別預かり保育は、土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始の他、聖母被昇天祭な

どを含む、年間園長が定めた15日以外実施する。(箕面市「子育て応援幼稚園」での取り決め)

※特に感じたのは、長期休業中への参加希望者が増えていることである。利用の理由を問わないこの取り組みは、通いなれた幼稚園で安心してお友達と遊べるということで、保護者のニーズも高いので、継続実施したい。

4. 幼保連携型認定こども園としての取り組み

① 組織の変革

* 保育教諭(幼稚園教諭と保育士の資格をもつ)を増やすこと、保育教諭が教員免許更新を行える環境を保障していくことに配慮した。

* 副園長は、つばさ組(2歳児)のみならず、園長の補助として、保護者への挨拶・園児への支援に当たった。

* 主幹教諭は、管理職として、人事配置や幼稚園の運営に積極的に参加した。

② 自園給食の設備整備

業者選択において、考慮する事項があり、2016年度から新業者に変更

(名阪食品から一富士フードサービスに変更)

5. その他の事項

◎教育実習生・職場体験生徒の受け入れ

*教育実習

3名受入れ

期間：2015年6月15日～6月26日

2015年9月1日～9月30日

2016年2月12日～2月25日

*職場体験

実施日：11月9日・16日(併設高等学校より54名)

11月10日～11月12日(箕面市立中学校より3名)

◎学校評価

2014年度末の学校評価から、PDCAサイクルからうまれた課題として、

- (1) 外遊び・体力面の考慮
- (2) 安全・安心な幼稚園の危機管理
- (3) 保育内容の発信

の3点をあげ取り組んだが、(2)・(3)に関しては、年度末に保護者から努力を認めてもらった感があるが、(1)に関しては、保護者からのメッセージに、なお一層の取り組みを願う声があるため、次年度は、(1)の外遊び・運動面・体力面の向上にポイントを絞って取り組んでいきたい。

2015年度 小学校 事業報告

2015年度事業計画 テーマ：「つながり」

1. 最重要課題

(1) 教育内容の充実のための取り組み・信頼回復～児童・保護者の満足度アップを目指す

(2) 入学者の確保

(2016年度入試 20名以上の入学者確保、併設中学校推薦 37名/46名 80%)

(3) 経費削減の努力

(4) 校務運営を円滑にすすめるための教職員組織強化

2. 課題への具体的な取り組み

(1) 教育内容の充実

2015年度事業計画	実施状況
①教員の質（授業力・生活指導力・児童支援力・保護者対応力）の向上	①・読書指導（100選）・数チャレの見直し ・ICT教育、特にiPadの活用の推進。 ・全教員による研究授業 ・校外研修への参加 ・全校による挨拶指導の継続 ・環境整備のため設備改修（AIE・ELプレイス・第1音楽室） ・校内研修（人権・生活指導・ICT）実施 ・アクティブラーニング等、21世紀型教育の研修と試行
②学級経営を中心とした児童支援の体制確立	②・担任の学級経営を中心に情報共有し、児童・保護者への迅速な対応に努めた。 ・中高人権と合同会議を実施 ・中高：生徒指導部・人権委員との連携 ・校外公的機関（池田子ども家庭センター・校医・医療機関）との連携
③小学校内での縦割り活動の強化+幼稚園及び 中学校との交流の強化	③・3・4年生自然教室、1・4年生校外学習を実施。 ・入学式・運動会・学習発表会・A.S.A.企画での縦割り活動 ・幼稚園の小学校教室利用推進 ・夏休み開校日に、高校生による5・6年生学習サポートを実施 ・中高教員による6年生学習指導 ・高校生による学校紹介の実施
④ 「国際理解教育」・「環境学習と食育」・「奉	④・申請後結果待ち

<p>仕活動と地域交流」を柱とした「ユネスコスクール」の申請</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高教員による英語クラブ指導 ・サマースクール（7/27～29 午後）は箕面市国際交流協会と連携 ・「世界一大きな授業」に5・6年が登録 ・5年生は、6/17にユニクロ出張授業「届けよう、服のチカラプロジェクト」実施 ・日曜参観鑑賞会「世界に貢献する女性・卒業生を迎えて」児童が、卒業生とヴァイオリン演奏共演 ・フィリピン、メキシコ、NZ 留学生来校
------------------------------------	---

(2) 入学者確保に向けた募集活動の取り組み

2015年度事業計画	実施状況
<p>①スクールバスの新設</p> <p>②下校時のスクールバス時間帯の見直し（アフタースクールの見直しを含む）</p> <p>③メニュー改善・給食に準じる委託弁当の見直し</p> <p>④併設幼稚園との日常的な交流の促進</p> <p>⑤2016年度入試 20名以上の入学者確保 併設中学校推薦 37名/46名 80%</p> <p>⑥その他</p>	<p>①・スクールバス彩都西ルートの新設</p> <p>②・全講座後にスクールバスを運行</p> <p>③・メニュー改善へのアドバイスを実施</p> <p>④・併設幼稚園との日常的な交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生、幼稚園実習。夏祭り出店。広報行事を通じて教員の交流 ・園児に、4年生が一輪車演技を披露 ・お預かり園児へ一輪車指導 <p>⑤ 2016年度入試 36名の入学者確保 併設中学校推薦 23名/46名 50%</p> <p>⑥・Web ページ、ブログの更新頻度向上</p>

(3) 経費削減の努力

2015年度事業計画	実施状況
<p>①小中高での効率的な節約と相互施設利用の推進</p> <p>②行事実施時の人的支援の依頼</p>	<p>①・中高特別教師の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPad 等備品の借用 <p>②・事務職員による広報行事などの援助</p>

(4) 校務運営を円滑にすすめるための教職員組織強化

2015年度事業計画	実施状況
<p>①小学校内規の作成と教職員への周知徹底</p> <p>②児童・保護者・学院内教職員との「つながり」を重視した校務運営</p>	<p>①・内規ファイルの作成</p> <p>②・職員会議での情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の報告・回覧の徹底

2015年度 中学校高等学校 事業報告

『社会を変革し、世界平和に貢献する女性の育成』…2015年度より

“Assumption Education”の構築

「豊かな品性と使命感をもった女性の育成」…女子教育に特化した取り組み…

【理 念】

1. 『共に喜びを分かち合える教育活動の展開』《生徒・保護者の満足度更なる向上》
すべての教育活動において、信頼と満足度の向上を目指す
2. 選ばれる学院になるために
学院のおかれている状況を再認識し、教職員一丸となって取り組む

【最重要課題】

1. 教育力の向上 新任研修をはじめ、教職員研修の実践
2. 入学者の確保 中学校 70名 高等学校 60名 目標
併設小学校からの進学 37名/46名 80%
他校小学校からの進学 33名
内部中学校からの進学 40名/45名 88%
他校中学校からの進学 20名
※広報のためのイベント、校舎利用、保護者の協力依頼実施検討
3. 経費削減の努力
4. 2016年度に向けての教職員体制の検討 効率化を図るための組織の見直し

【教育内容の改革】 2015年度～ 大学入試改革に備えた教育内容の改革

1. 「アサンプション・(グローバル・) エデュケーション」の構築
～ 自らの持つ使命を探究し、平和のために働くグローバル・リーダーの育成 ～
 - (1) 「日本の文化に高い関心と理解があり、その普及に努力できる女性」の育成
 - (2) 「異文化を受け入れ、共に学ぶ環境で、世界平和の実現に貢献できる女性」の育成
 - (3) 一貫教育において
 - ①教科、行事、課外活動において高いレベルの「知識・技能」を蓄えさせる
 - ②自学自習の習慣を身につけさせる
 - ③アクティブラーニングを中心とした探究型授業の実践
 - ④課題研究において自ら課題を発見、その解決に向け探究、成果を表現できるに足る「思考力・判断力・表現力」を養う
 - (4) ネットワークを利用したフィールドワークにより「主体性、多様性、協働性」を養う
 - (5) エチケット、マナーの習得
 - (6) 奉仕・ボランティア活動への関心を持たせる実践

【学校発展のための目標設定】2015年度～2020年度（SGH 目標設定シートより）

- (1) 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数 25～30名
- (2) 将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合 33%
- (3) 自主的に資格検定試験を受験しようとする生徒の延べ人数 350人
- (4) 国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合 25%
- (5) 国公立大学進学する生徒の割合 15%
- (6) 卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合 60%

【その他教育活動における計画】

1. 教育課程の見直し。総合的な学習を中心とした教科横断的学習の検討
2. 学校いじめ防止基本方針の点検、見直し
3. 小中高一貫での効率的な業務遂行の検討と校舎利用計画の検討
4. ICT教育充実のための整備 メディアルームコンピュータの入れ替え
(2015年度～2016年度)
5. 海外研修（フィリピン・フランス・アメリカ）のフィールドワークの充実を図る

フィリピン研修 受け入れ	2015年4月10日～23日	14日間（予定）
派遣	2015年7月27日（月）～8月9日（日）	14日間
フランス研修 受け入れ	2015年9月（予定）	ボルドー校と調整中
アメリカ研修	2015年8月1日（土）～10日（月）	10日間
6. 国際交流・外国語センターの充実
7. 地域交流と奉仕活動

【最重要課題への具体的な取り組み】

1. 教育力の向上 新任研修をはじめ、教職員研修の実践状況

日程	研修テーマ・内容	参加者
4月1日	労務・その他諸規定	新任常勤講師（5名）・校長・教頭
4月1日	創立者の理念	新任常勤講師（5名）
10月22日	聖書の解説	新任常勤講師（5名）
8月24日	人権教育学習	常勤・専任教員全員

2. 入学者の確保 中学校 70名 高等学校 60名 目標

目標	実績
併設小学校からの進学 37名/46名 80%	併設小学校からの進学 23名/46名 50%
他校小学校からの進学 33名	他校小学校からの進学 22名
内部中学校からの進学 40名/45名 88%	内部中学校からの進学 32名/45名 71%
他校中学校からの進学 20名	他校中学校からの進学 12名

3. 経費削減の努力…時間外手当

	2014 年度	2015 年度
超勤時間	966.5 時間	759.5 時間 (2 月末現在)
休日手当	1,625,000 円	1,690,000 円 (2 月末現在)

4. 2016 年度に向けての教職員体制の検討 効率化を図るための組織の見直し

…特記事項なし

5. 学校発展のための目標設定 2015 年度～2020 年度 進捗状況

目標	今年度の状況
(1) 自主的に留学又は海外研修に行く生徒数 25～30 名	33 名
(2) 将来留学や、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合 33%	未調査
(3) 自主的に資格検定試験を受験しようとする生徒の延べ人数 350 人	392 人
(4) 国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合 25%	17.3%
(5) 国公立大学進学する生徒の割合 15%	1.9%
(6) 卒業時における生徒の 4 技能の総合的な英語力として CEFR の B 1～B 2 レベルの生徒の割合 60%	25%

【課題への具体的な取り組み】

1. 教育力の向上 新任研修をはじめ、教職員研修の実践

(1) 学習指導

- ① 20:00 までの自習室をはじめとする学力向上プログラムの実施
- ② 高3 演習科目の具体的な運用と問題点の改善
- ③ 出席時数不足で単位未認定になった場合の評定の付け方の検討
- ④ 総合学習（高校）の単位認定基準の明確化
- ⑤ 自学自習の一助としてシラバスに試験、模試、検定の1年間の予定を記載
- ⑥ 留学した生徒の成績処理方法の統一
- ⑦ 各教科による探求型授業の集約と発信
- ⑧ 各教科による ICT 活用授業の集約と発信

夏休み中の小学校学習会（5・6年）への高校生による手伝い

(2) 生活指導

- ① 登下校時のマナー指導、あいさつ指導、および遅刻指導。
- ② 学期始めにおける身だしなみ指導。
- ③ リフレッシュタイム、昼休みの校内巡視(教室、食堂)。
- ④ 生徒会行事の工夫（学院祭の内容変更）
- ⑤ 清掃計画、およびその指導。
- ⑦ 保健・安全指導（各種検診、避難訓練、交通安全、防犯、薬物、ネット）。

(3) 進路指導

- ① 関西学院大学との協定推薦入学制度の締結
- ② 5教科主任会議を行事予定に組み込み模試の数値目標について定期的に確認。
- ③ 高校の各教室・進路指導室の、進路に関する資料整理の工夫。
- ④ 高3進路情報交換会を実施。
- ⑤ 外部講師による講演や、生徒のニーズに応じた進路ガイダンス等を実施。
- ⑥ 水曜講習、土曜講習、夏期講習、冬期講習、高3特別講習を実施。
- ⑦ 模擬試験を実施し、その分析などで **Fine System** を活用。
- ⑧ 定期試験前に放課後の自習室を開設。通年で 18:00 以降の自習室を開設。
- ⑨ 各大学等の説明会などへの参加。

(4) 入試広報

- ① レベルを維持しつつ志願者を増やす
 - a. 入試連絡会で相談基準を維持。
 - b. パンフレットを早期に完成（4月中）、早くからの広報活動に努めた
 - c. 公立中学校訪問時、早期（5月訪問時）に相談基準を配布。
 - d. 関西学院大学との連携協定。
 - e. 各説明会への参加者は昨年度より約 200 名増加・パンフレット請求も増加。
 - f. 志願者も増加したが、説明会参加者の増加ほど増えなかった
 - g. 在校生の居住地を分析。次年度塾訪問・公立中訪問計画に反映
- ② 業務の整理・精選を行い、計画的な運営に努める。
 - a. 費用対効果の観点から、今年度も広告について大きく費用を削減した
 - b. 外部説明会についてはほぼ昨年度並みの参加
 - c. 昨年度のタブロイド版から費用も考え内容を精選したパンフレットを制作
 - d. 今年度副部長を置いて塾訪問を校長・教頭とともに分担
 - e. 入試広報室の位置付けの整理は行われず、実質人員減のままの広報運営。
 - f. 学校説明会の準備を計画的に行い、前日の時間外勤務をほとんどなくした
- ③ 一般向け広報の拡大・充実、保護者向け・内部小学校向けの情報発信も充実
 - a. Web と Blog・Facebook ページで情報発信しアクセス数は 1000 件を超えた
 - b. 同窓会 Facebook ページとも連携、告知等を行った
 - c. 3月に「被昇天コンサート」を聖歌隊・ハンドベルの協力を得て実施
 - d. 広報行事の告知方法の拡大・関心のある層への情報発信の強化

(5) 学年会

- ① 学習を中心にした学校活動に対する意欲的な態度の育成
- ② 教員の一致した指導の徹底
- ③ 外部講師や卒業生の招聘を含めた進路・人権 LHR などの積極的活用
- ④ 各学年の状況や特性を考えた総合学習・行事の企画と実施
- ⑤ 不登校生徒、要配慮生徒に対する教育相談室との連携

- ⑥問題発生時の生徒指導部との連携
- ⑦環境整備に対する意識、生徒の挨拶・言葉遣い・マナーなど規範意識の向上指導
- ⑧学年会の情報を回覧することによって、他学年の情報を共有
- ⑨オリジナルの学習計画ノート・手帳の活用指導